

**ヤリチンで  
モテモテフレイボーイの  
巨根大学生カストが送った  
セックス尽くしの一日  
射精回数全26回！！  
第2話**

「おいっ！カズト、カズトッ！」

カズトが振り向くと、他学部のコウスケという同学年の男子学生が手招きしていた。コウスケは経済学の講義で知り合った男で、とてもチャライがどこまでもノリの良い男。

学祭の実行委員会とは全く別の友人グループの一人で、コウスケに限らずこの友人グループの男たちは基本的にとにかく女遊びばかりしている。

カズトが近づいていくと、嬉しそうなトーンでコウスケが言った。

「メチャクチャ良いとこに来たじゃんおまえっ！！」

少しだけ小声になってコウスケはカズトに続けた。

「ほらっ！こっちへ混じれよな！！」

そしてカズトを学際のミーティングルームのある建物の横にあるプレハブの中へと誘った。

このプレハブは工事中の棟の改築が完了するまでの臨時の授業の場所の一つとして設けられたものなのだが、冬から始まった工事が予定通りに進まず長引いていて、今は基本的に使用されていないはずだった。

プレハブの中は狭く、奥の壁が仕切られたカーテンによって見えない。こんなに暑くてエアコンもつけられていないのに、窓は全部閉まっている。

「またやってんだあ！いいじゃんいいじゃん！！」

カズトは言った。

そう、それはこれまでもカズトが何度も参加したことのある学生たちの日常行事・・・。

カーテンを開くと、そこには水泳部のアカネとポールダンス部のミレイ、ナナミが全裸で薄い赤色のマットの上に座り、足をモジモジさせていた。

「あっ、カズトだあ！やったあカズトが来てくれたあ！」

たまらなく嬉しそうに満面の笑みで言うアカネ。高いキャピキャピした声は弾んでいる

「嬉しい！カズトってセックス凄いもんね！」

ミレイとナナミがアカネの喜びに声を揃えて同意する。

「うんうん！！有名有名！」

カズトはもはや単なるヤリチンではなく、ビッチの女子大学生たちの多くを夢中にさせるほどのモテモテプレイボーイと化していた。

「じゃあこれで一応男女で人数そろったしさ、始めよっか！！」

「始めよ～始めよお！！！」

プレハブ内にはカズトをこのここへ誘ったコウスケの他に、レスリング部で筋肉ムッキムキのヒロナリという男子がいた。

カズトと同等かあるいはそれ以上に遊びまくっているコウスケは、女の子たちをいつも隠れ家のようにになっているこのプレハブへ呼び、半ばハーレム状態でセックスを楽しむことも多かったのだが、この日は男女比が同じことによる“男と女の一体感”のようなものを楽しみたかったらしく、6Pを目論んでいた。

そこへカズトがやってきたというわけだ。

蒸し風呂のようなプレハブの中で男女の興奮はマックス状態！！

体験版はここまでです  
もし気に入っていただけましたら、  
続きを製品版で楽しんでいただければ幸いです